

平安京左京六条三坊五町跡

発掘調査現地説明会資料



甕群1（北から）

2005年4月23日

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京六条三坊五町跡発掘調査現地説明会資料

所在地：京都市下京区楊梅新町東入上柳町224（旧尚徳中学校・楊梅幼稚園跡地）

調査期間：平成16年（2004）9月～平成17年（2005）6月まで

調査面積：約2,150m²

調査主体：（財）京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

当地は平安京左京の六条三坊五町の北端と楊梅^{やまもも}小路にあたります。平安時代後期には源顕房^{みなもとのあきふさ}の邸宅「六条殿^{ろくじょうどの}」が置かれました。室町時代には麴室^{こうじむろ}・酒屋などがあり、江戸時代初めの慶長7年（1602）から寛永17年（1640）までは島原の前身となる遊郭（「六条三筋町^{ろくじょうみすじまち}」または「六条柳町^{ろくじょうやなぎまち}」と呼ばれました）が置かれました。明治2年（1869）には尚徳小学校が開校され、戦後は尚徳中学校となって現在に至ります。

遺構の概要

室町時代の遺構を中心に解説します。この時代の遺構には、甕群^{かめ}、井戸、柱穴、土壇^{どこう}があります。甕群とは甕を据え付けた穴が規則的に並ぶ範囲で倉の跡とも考えられます。

甕群1 調査区の中央部で発見しました。東西約14m、南北16mの範囲で甕を据え付けた穴を200基ほど見つけました。穴は円形で、直径0.6m、深さ0.4mほどあり、0.9mごとに整然と並んでいます。穴の下にも古い時期の穴があり、甕の据え替えがあったことがわかります。いくつかの穴底には常滑焼の甕の底が残されていました。

それを復元すると高さ80cm、腹周りの径80cm、内容量250リットルほどの大甕になるものと考えられます。中に入っていたものの痕跡はありませんでした。また、甕を覆う建物の構造については、約2.8m間隔で柱の礎石が並ぶ所もありますが、まだよくわかっていません。

甕群2 甕群1の北西部で発見しました。甕を据え付けた穴は、南北に5基、東西に4基並んでいたと思われれます。北西隅の穴2639では常滑焼の甕がつぶれた状態で見つかりました。

井戸 19基見つかりました。1基の他は南西側で見つかりました。その内4基は石で井筒を積み上げた石組井戸です。井筒のない井戸も本来は石組井戸だった

ものが、後に石を抜き取られたものであると思われます。井戸の底に方形の木枠が残っているものが4基あります。

柱穴群 甕群1をはさむ東西両側には小さな柱穴が密集していて、掘立柱建物（地面に直接柱を埋め込んで建てる建物）があったことがわかります。柱穴は直径0.4m、深さ0.3mほどで、底に礎石を据えたものも見られますが、建物の大きさや、どのように建てられていたかはわかりません。

土壌 当時のゴミを捨てた穴や土を採集した穴などを総称したものを土壌と言います。柱穴群の外側、調査区の西端と東端に多く掘られています。土壌2672・2753などから室町時代の土器がまとまって見つかりました。

楊梅小路路面 調査区の北側3分の1は楊梅小路の路面です。路面は砂利や土を何度も敷き直しており、厚いところでは約1mに達しています。道路に伴う側溝は北側と南側で発見しましたが、ともに平安時代のもので、室町時代の側溝は見つかっていません。なお、現在の楊梅通はこれよりも北に約25mずれています。六条三筋町を造ったことによって北に移されたと考えられていましたが、今回の調査でそれを裏づけることができました。

遺物

室町時代の遺物は、土師器、瓦器、須恵器、陶器、輸入陶磁器、瓦などがあります。甕群1から出土した常滑焼甕、甕群2出土の備前焼甕は、室町時代前期（14世紀前半）のものと考えられます。

まとめ

調査区の中央部に甕群があり、東西両側の柱穴群や井戸のある所が作業場であったとも考えられます。

さて甕の中には何が貯蔵されていたのでしょうか？

室町時代の下京では楊梅小路沿いに多くの麴室、酒屋が営まれていたことが史料から判明しています。それらの史料のひとつに応永26年（1419）「楊梅室町西南類之倉」（史料1参照）と場所が特定できる倉があり、今回検出した甕群と合致する可能性もあります。ただし、出土した常滑焼甕、備前焼甕が応永26年という年代よりも古いこと、甕の数や井戸の数が多いこと、作業空間を伴うことなどからすると、この場所では大規模かつ長期にわたり酒造りが行われており、そのため文書に「倉」と明記されたものと思われます。このように今回検出した甕群を主体とした遺構は、史料に見えなかった下京の経済活動の実態を知る上で好資料といえます。

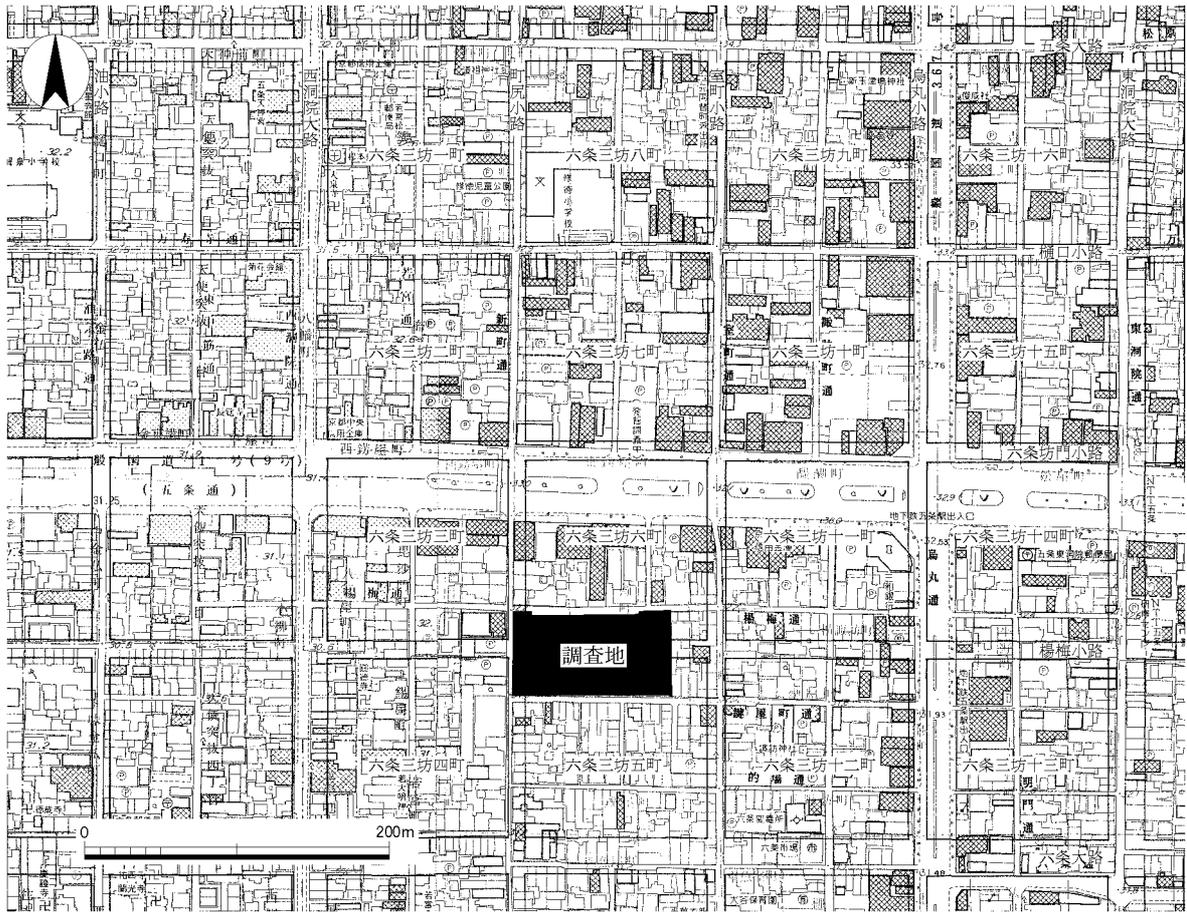


図2 調査地周辺の平安京条坊

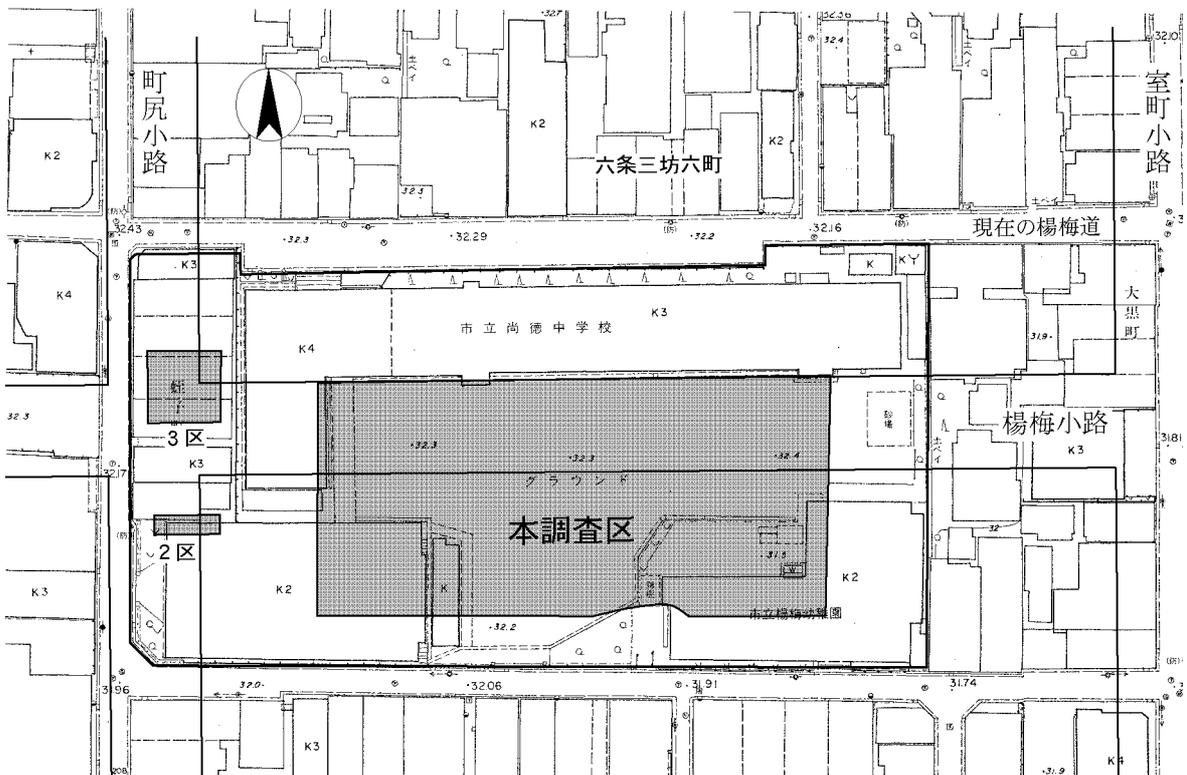


図3 調査区と平安京条坊の関係



Y=-21,920

Y=-21,900

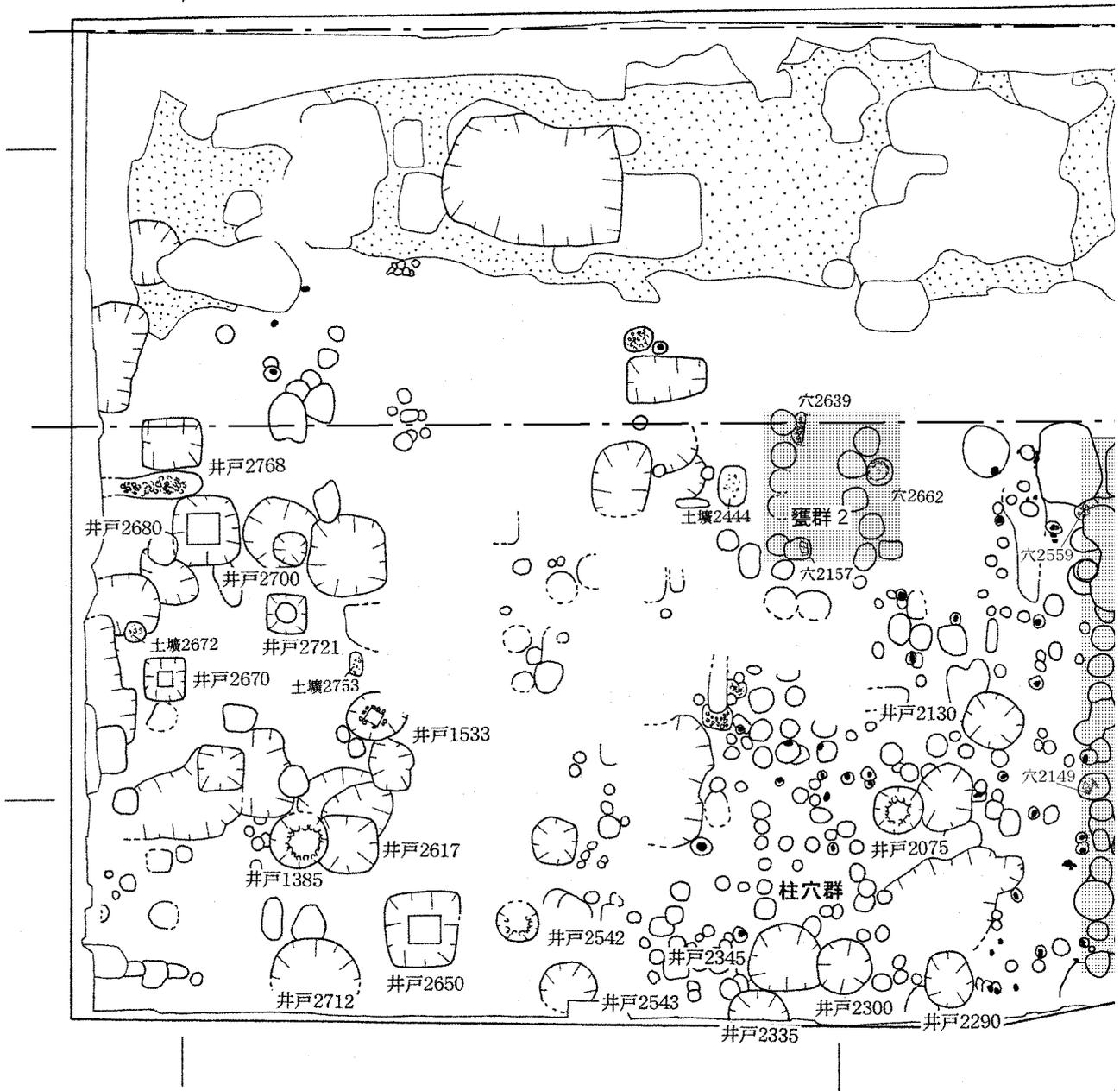


図4 本調査区 平面図 (S=1/200)

Y=-21,880

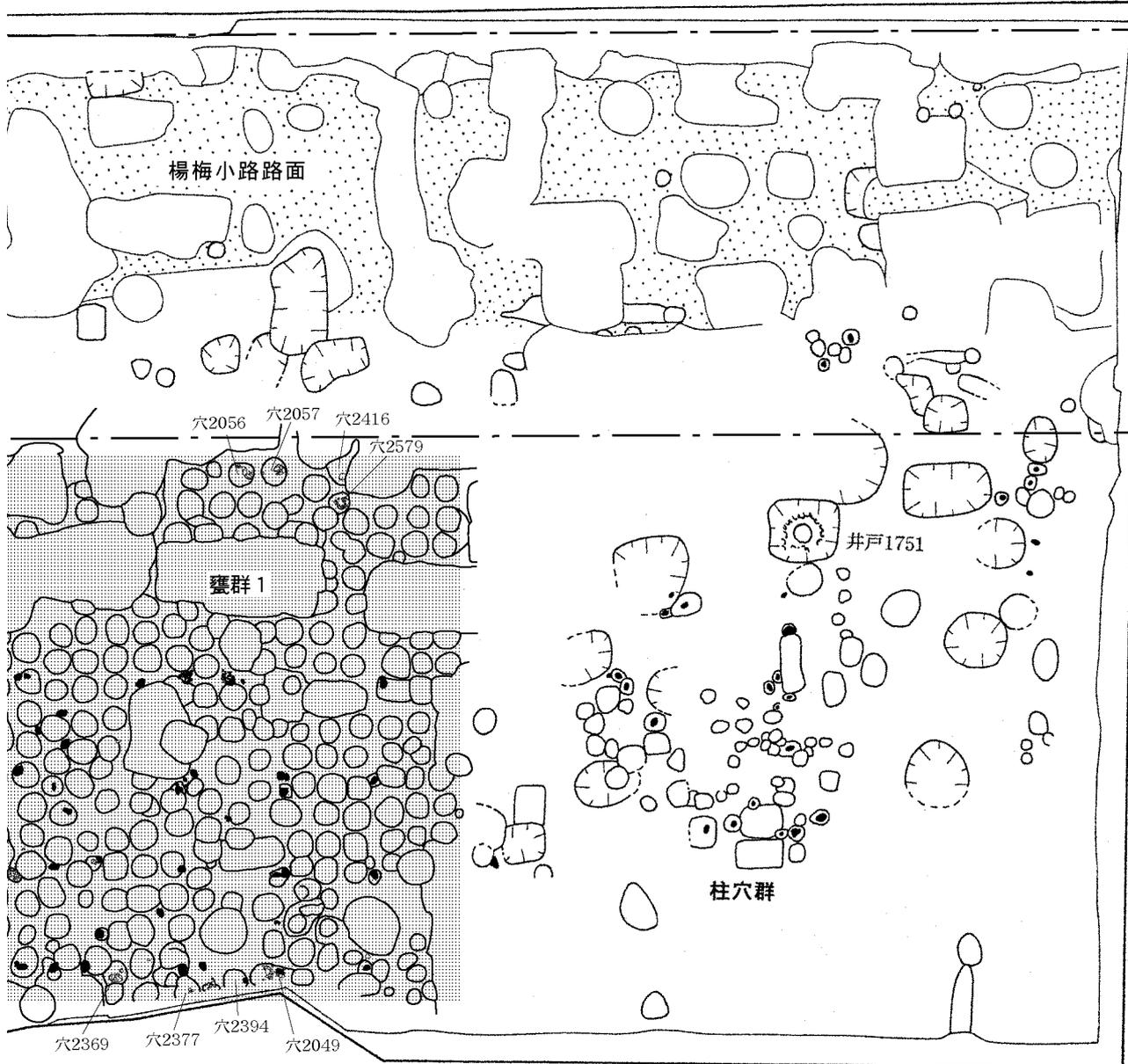
Y=-21,860

北築地

X=-1

南築地

X=-11



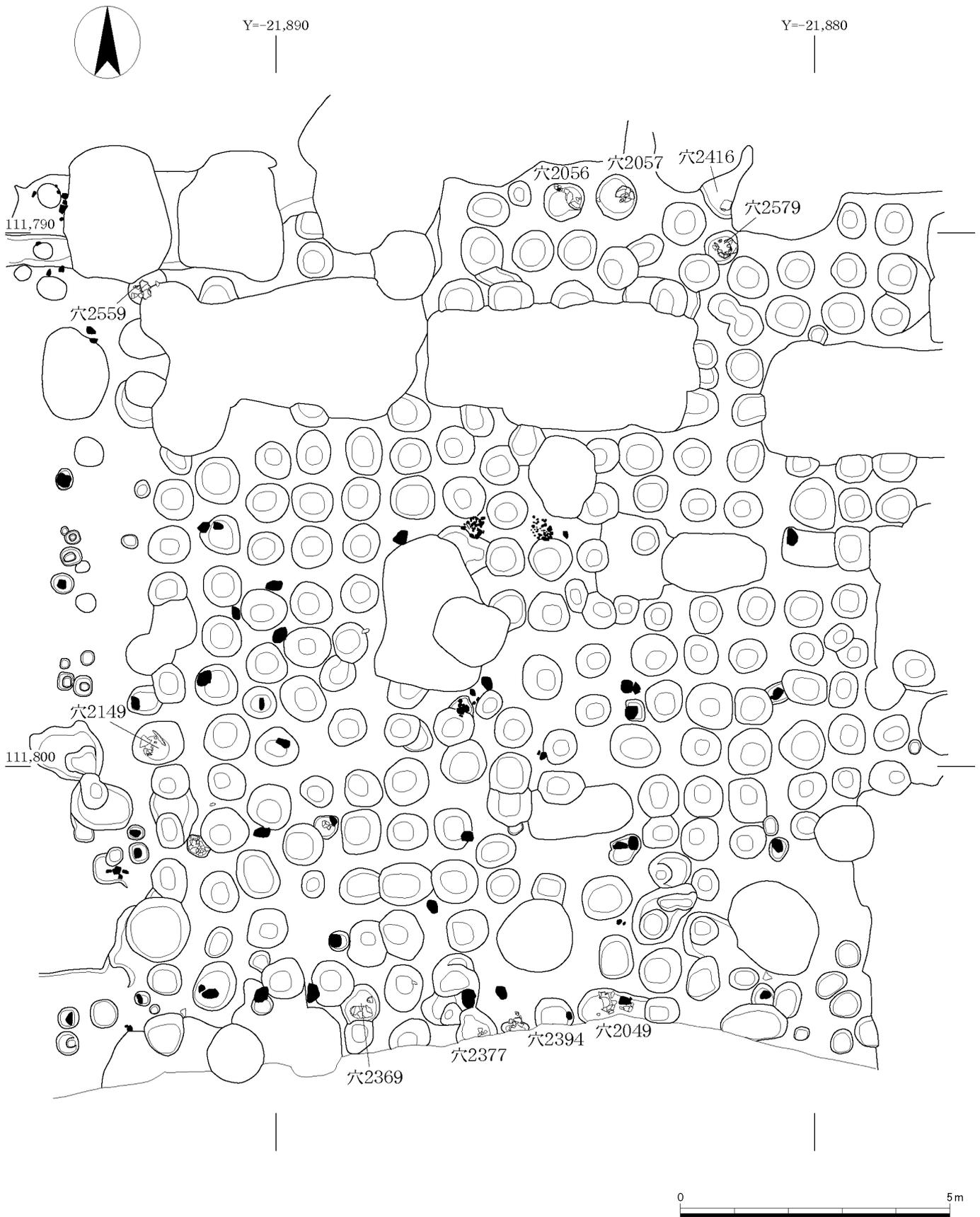


图5 甕群1 拡大平面図 (S=1/100)



図6 甕群2 (東より)

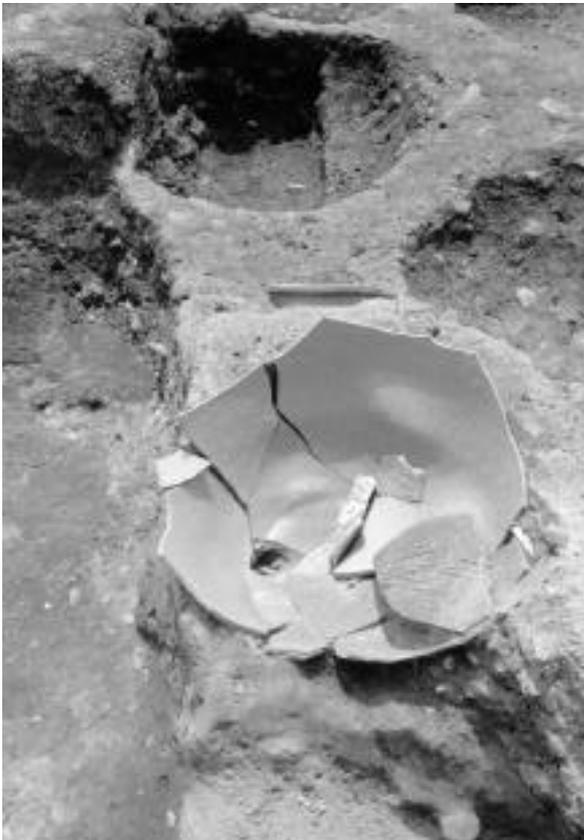
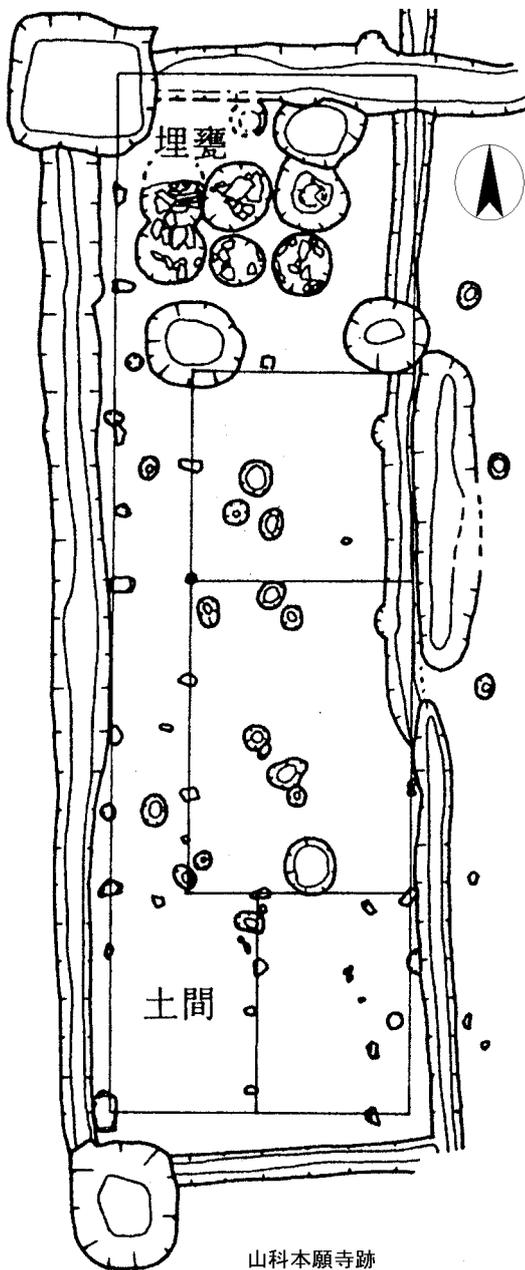


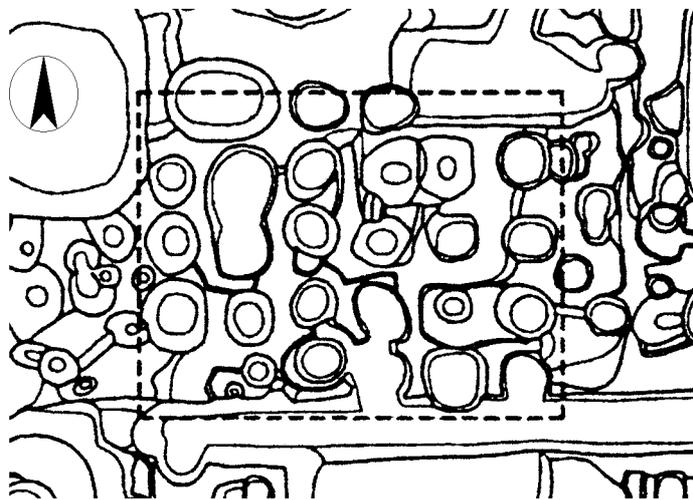
図7 甕群2 据え付け穴2662 (北より)



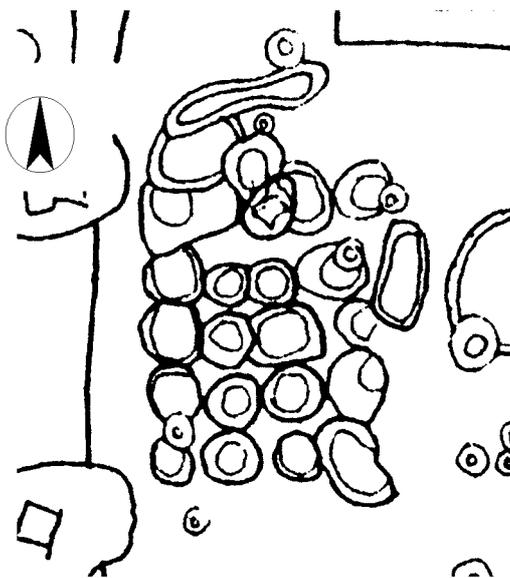
図8 甕群1 北端の状況 (東より)



山科本願寺跡



平安京左京八条三坊三町



平安京左京八条二坊十五町



図9 京都市内埋甕出土例 平面図 (S=1/100)

『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』による

史料1 文献に記された調査地周辺の記述

〔北野天満宮文書〕 応永二十六年十月一日

やまもゝまち(楊梅町)きたにしのつら(面)さかや(酒屋)かうし(麴)の事、いまよりのちかうし仕ましく候なり。

長阿(花押)

けんあ(略押)

〔北野天満宮文書〕 応永二十六年十月一日

やまもゝまちきたにしのつらさかや、きやうこう(向後)かうしつかまつり候ましく候なり。

かね(花押)

けんあ(略押)

〔北野天満宮文書〕 応永二十六年十月二日

公方より仰被_レ出候かうしの事、向後仕候ましく候。楊梅室町西南頼之倉。

道□(花押)

町人衛門五郎(花押)

京都市1981『史料 京都の歴史 12 下京区』による



図10 左京八条三坊三町埋甕出土写真（北より）



図11 山科本願寺跡埋甕出土写真（北より）

財団法人京都市埋蔵文化財研究所ホームページ <http://www.kyoto-arc.or.jp/>
現地説明会の案内を御希望の方は、メールにてお知らせ下さい。